

センター試験国語八割の勉強法

現代文は何となくでも点が取れてしまう教科です。問題によって点に大きくばらつきが出やすい教科となっています。

センター試験の読解は最高レベルです、これができればほとんどの大学で読解に困ることはありません。

確実に得点するために最初にマスターすべき事は「確実に違う選択肢を除外する」です。選択肢には必ず、明らかに正答とは異なる選択肢が含まれています。これらは大抵同じようなパターンで正答からズラしてくるので、この「ズラしかた」を押さえましょう。代表例として挙げられるのは以下の通りです。

- ・ 本文内容とは逆のことが書いてある
- ・ 本文にないことが書いてある
- ・ 要点がはずされている
- ・ 質問の答えになっていない（内容は合っている）

【評論文】

さて、「確実に違う選択肢」を除外すると、残りは二～三択になります。

たいていの場合は「本文の言葉を使ってまとめた選択肢」と「本文の言葉を言い換えていて、特に切る理由がない選択肢」が残ります。正解は後者のことが多いのですが、上達中の人は選択肢の文が「本文に近い方」を選んでしまう時期があります。内容が微妙な選択肢に関して以前よりも疑い深くなってしまい、その結果、より本文に近い間違った選択肢を選んでしまうのです。これは悪いことではなく通るべき通過点です。

本文に近いことと選択肢の文の中に間違いがあるかどうかは何の関係ありません。

また、傍線部分の周辺をよく読んでいないため正答と反する理解をしてしまう場合があります。間違い選択肢を除外したら、ひたすら傍線部前後の文の正確な理解につとめてください。

【小説文】

小説はとくに流れが大切です。傍線部分より後の話なのにそれを前提で傍線部分を読んだりすると間違える可能性が高いです。時間の流れ、登場人物の意識の流れを確実に押さえてください。後に書いてあることでも過去の話であればその部分は前提知識になります。

評論文のように、最初と最後で同じ内容を述べることはほとんどありません。同じ読み方にならないこと。

古文で点を取るには「古文は外国語だと思え」とよく言われますが、

古文で点を取るには、必須となる単語や文法をマスターしても古文の点数は上がりません。古文の点数は、「文中で省略されている内容」をきちんととれるか否かにかかっているのです。

現代語でもそうですが、古文は主語・述語・目的語などが省略される傾向にあります。そして、古文の問題はこの省略された「主語・述語・目的語」を問うものが非常に多いのです。

問. 「思ひ入れたる顔のにはほひ…」の解釈として最も適当なものを選択肢から一つ選べ

- ①花に思いをめぐらせている娘の顔の様子は…
- ②死を意識して悲しみに沈んでいる娘の顔の様子は…
- ③女の童を思いやる娘の顔の色は…
- ④梅の花の色香を深く味わっている娘の顔の様子は…
- ⑤過去の思い出にひたっている娘の顔の色は…

問題だけ見たのでは選びようがありません、全部文章を読んで「主語・述語・目的語」を補って理解しないと、点を落とす人が珍しくありません。では、どうやったらこれら省略された内容がとれるのでしょうか。

1. そのために覚えるべき一つ目が敬語です。敬語は大きく分けると二つがあり

- 尊敬語（～なさる）：「身分の高い人が主語」の時に使う
 - 謙譲語（～させていただきます）：「身分の低い人が主語（相手は身分の高い人）」の時に使う
- どちらが使われているかどうかで主語が判別できます。（謙譲語の場合は相手もわかります）

このように敬語の種類がわかると主語や目的語が一発でわかります。

ただし、実際の文章から敬語の種類を判別するためには、まだ覚えるべき事があります。

それが、**補助動詞**と**助動詞**です。

敬語には尊敬語・謙譲語の違いとは別に、本動詞・補助動詞の区別があります。

	本動詞	補助動詞
尊敬語	（動詞が敬語に置き換わる）	（動詞の下に付いて敬語の意味を付け足すもの）
謙譲語	（動詞が敬語に置き換わる）	（動詞の下に付いて敬語の意味を付け足すもの）

つまり敬語の種類を判別する時は、これを区別する必要があります。

敬語の本動詞・補助動詞はそれほど数がありません。なので本動詞なら意味との対応を、補助動詞なら尊敬・謙讓の区別を丸暗記してしまいましょう。

2. 助動詞は、動詞の後に付いて意味を付け加えるものです。

尊敬の意味を加える場合は、主語が身分の高い人だと確定できます。

外に出 <u>らる</u> → [身分の高い人が] 外においでになる 【尊敬】
--

ただし、助動詞には尊敬以外の意味もあります。

思ひ入れ <u>たる</u> 顔のにはほひ… → 思い入れている顔の様子 【存続】
--

この場合だと、「今行動している人」を直前の文から探し出さないと主語がとれません。

と言うわけで、助動詞については次の三つが重要になります。

- ①意味 : 助動詞それぞれの意味
- ②接続 : それぞれの助動詞の直前に何形が来るかの決まり
- ③活用 : 助動詞がどのように活用するか

この三つを覚えることで、どの単語が助動詞か、主語が何かが判別できます。

これに尊敬語・謙讓語の判別を加えることで、「古文で省略されている内容」がわかります。

漢文で点を取るには漢文の基礎は「音読ができるようになること」です。

漢字のままに捉える癖がついていると、訓の意味にまでイメージが広がります、音で漢字を捉えることができるようになる必要があります。

まずは 返り点と 再読文字をしっかり覚え、書き下しが行えるようにします。

漢文で問われるポイントは文法です。最低限必要な文法は 受身・使役・反語くらいです。また、漢詩の問題が出題された場合、ほぼ間違いなく韻がからみます。そのため韻のルールさえ覚えていれば前後の文章判断でとけます。何年かに1度は出題されています。

読解で、自分の読んだ内容をあまり信用しないことです、

- ①選択肢を部分訳として利用し
- ②選択肢の内容が書いてある部分を本文から探す

という方法で、読めない部分も内容がとれるようにしていきましょう。